

オリンピック・パラリンピック

—府中市News—

問い合わせ先 地域振興課 (☎43-7251)

Topics 中林日登美さんインタビュー



府中市ゆかりの
聖火ランナー

中林 一人さん

中林 日登美さん

病気で亡くなられた息子 士さんの遺影を
手に持つ日登美さんと夫の一人さん

全ての方への感謝を込めて、 息子と一緒に走る聖火リレー

「支えてくださる方に感謝の気持ちで走りたい。」こう答えてくださったのは、府中市ゆかりの聖火ランナーとして、府中市を走ることが決定した中林日登美さんです。中林さんは、現在、中学校の体育教師として、生徒たちを教えています。聖火ランナーに応募した理由を聞くと、「オリンピックが日本で開催すると決まった時に、息子と見に行きたいねと話しました。いざオリンピックが近づくとチケットは取れそうにないし、何とか関わられることはないかと探しました。ボランティアにしても、ホテル

も取らないといけないし、難しいと思っていましたが、聖火リレーの募集を見つけて、これは応募しなきゃと思いました。」

オリンピックの話をした息子さんは、今から4年前に27歳の若さで骨肉腫のために永眠されています。オリンピックを見たかった息子さんの分も一緒に聖火リレーを走りたいと、話す中林さんは、「息子に関わってくださった方や、同級生の子たちに、私が聖火リレーを走ること、息子のことを思い出してほしいんです。そうすれば、同級生のみんなどと同じように成長しているように感じるんです。」と笑顔に。

闘病中に大きな幸せの 時間が訪れる

高校を卒業した息子の士さんは、北九州の大学に進学し、小学校から続けていた野球も続けていました。そして、北九州の大学を卒業し、2012年4月に、中学の体育教師として採用されました。その1年後2013年に病気が発覚。手術を経て、治療に専念するために休職することになります。「抗がん剤治療を続けながら、がんと仲良く付き合っていくしかない」と復帰の準備を進めていた矢先に余命宣告を受けました。それでもなお『仕事と好きな野球をしたい』という息子のために、私たちは、サプライズを用意しました。大学の後輩にあたるカープの大瀬良投手に病室に来ていただくことです。後輩といっても、息子と学年も違い、面識もなかった大瀬良投手にサプライズへの協力をお願いするのは、難しいと思われましたが、知り合いの方のおかげで、実現することができました。大瀬良投手は、『僕にできることがあれば、なんでもします』と言ってくださいました。実際に病室に来てくださった45分間は、息子にも幸せな時間でしたが、私たちにとってもかけがえのない幸せな時間でした。そのときのことを今でも思い出します。大瀬良投手の活躍の向こうに息子の姿

が見えるんです。大瀬良投手のちょっとした仕草が、息子に似ているところもあってね。」と楽しそうに話されました。

自分の教え子の生徒たちに

「聖火リレーが決まって、生徒たちに息子の話を初めてしました。話す前は『ちゃんと走れるんか』『こけるなよ』とか言っていた生徒が、『自分の夢を諦めず、必ずかなえるよ』『息子さんの方も頑張って』と喜んでくれた。

当たり前前の日常に感謝し、どんな環境の中でも夢や志を忘れず、自分のしたいと思ったことは努力してつかんでほしい。」と語られました。

**5月19日(火)に行われる
聖火リレーに伴い、
通行規制を行います**

通行規制区間
国道486号を含むはじまりの広場前から、中須中交差点までのルート